

質的研究とは何か

—教育テクノロジー研究のいっそうの拡張をめざして

大谷 尚*

What is Qualitative Research?

—Toward Further Expansion of Educational Technology Research

Takashi OTANI*

The author discusses the significance of qualitative research methodology in educational technology research. For that purpose, he first describes what qualitative research is, showing its characteristics, process, differences from quantitative research, crucial points for its understanding and practice, generalizability and research evaluation. Then he discusses its significance in educational technology research, in terms of from technology-push to requirement-pull, from research for the research article's own to effective system development, from product-focused to process-focused, necessity of goal-free evaluation, research on teachers who are the gate keepers of educational technology, and educational research through educational technology research.

キーワード：質的研究，量的研究，研究デザイン，研究手法，教育テクノロジー

Everything that can be counted does not necessarily count; everything that counts cannot necessarily be counted

数えられるもの全てが必ずしも意義あるものではない。意義あるもの全てが必ずしも数えられるものではない。（アルベルト・アインシュタイン）

1. はじめに

1.1 今日における質的研究の普及

今日、「質的研究」という言葉が盛んに用いられるようになっている。この語を書名に含む書が続けて出版され、社会学などはもちろん、従来であればそのような副題が付かなかったと思われる心理学、社会福祉学、医学、看護学などの多様な研究書にも「質的研究」云々という副題が付される傾向にある。質的研究とは、今や一種の研究的トレンドであるようにさえ見える。しかしなぜ今、質的研究がトレンドになっているのだろうか。

それは、質的研究が、従来の量的・実証的研究が扱いきれなかった研究主題や研究対象を扱えると考えられているからであろう。実際、これまで重要だと考えられていてもそれを研究的に扱う手法がなかったような問題に、質的研究手法を適用することができる。それこそが、質的研究の存在意義である。またそれはとくに、研究対象を、より実践的なパースペクティブにおいて捉えるのに適している。上記の諸領域の多くは、人間を対象として組織的・実践的に行われる「社会的サービス」あるいは「ヒューマンサービス」であり、教育もまさにその一つである。そのような領域における研究の拡充の必要とともに、今日、質的研究は受け入れられ、広く活用されるようになって急速に広がってきたと考えることが可能である。

1.2 教育テクノロジー研究と質的研究

—質的研究への期待と「評価」の発展の動向

ここでこのような背景の一端を見るため、評価研究の動向に目を向けてみよう。新たな学習方法、学習プ

*名古屋大学大学院教育発達科学研究科 (Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University)